

公演のお知らせ

チケット
好評発売中！

市役所文化振興課
☎ 055-949-8600



ファミリーコンサート 音楽のおくりもの

とき／**3月4日(土)** ①開場 10:00 開演 10:30
②開場 13:30 開演 14:00

ところ／**葦山時代劇場** 大ホール

チケット／【全席指定】一般 1,000 円 中学生以下 500 円

※未就学児は無料。ただし、座席が必要な場合は有料。

0歳から
入場可能！

チケット販売所／

- ▶アクシスかつらぎ (☎ 055-948-0225)
- ▶葦山時代劇場 (☎ 055-949-8600)
- ▶ローソンチケット (Lコード: 41892)
- ▶チケットぴあ (Pコード: 309-656)

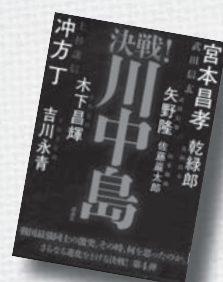
図書館だより



『どうぶつたちの贈り物』
小川洋子ほか (著)

ペンネームに「動物」がひっそりと隠れた作家が紡ぐ、「動物」をテーマにした物語。小川洋子、東川篤哉、白河三兔、鹿嶋田真希、似鳥鶏の5編。

【葦山】



『決戦！川中島』
冲方丁ほか (著)

冲方丁は上杉謙信、宮本昌孝は武田信玄、乾緑郎は真田昌幸など、各作家が一武将を取り上げ、決戦の激突を描く。全7編。決戦シリーズはほかに関ヶ原、本能寺、桶狭間、三國志がある。

【中央】

- 『アンソロジー捨てて』大崎梢、近藤史恵、篠田真由美ほか (著) 【中央・葦山】
- 『本屋さんのアンソロジー』飛鳥井千砂、坂木司、菅田哲也ほか (著) 【中央】
- 『和菓子のアンソロジー』小川一水、北村薫、畠中恵ほか (著) 【中央】
- 『小説の家』柴崎友香、山崎ナオコ、最果夕希、長嶋有ほか (著) 【中央】
- 『ノスタルジー 1972』中島京子、堂場瞬一、重松清ほか (著) 【葦山】
- 『ヴィジョンズ』宮部みゆき、宮内悠介、円城塔、神林長平ほか (著) 【葦山】

2月の休館日 中央図書館 6日(月)、11日(土)、13日(月)、20日(月)、24日(金)、27日(月) 葦山図書館 1日(水)、8日(水)、11日(土・祝)、15日(水)、22日(水)、24日(金)

開館時間 (共通) 9:00 ~ 17:30 中央図書館 ☎ 0558-76-5566
図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/>

今月のおすすめ ～ 913.68 ～

背ラベル“913.68”は、多数の作家の小説集です。テーマによる短編集には、“F”にない楽しみがあります。

■広域利用

伊豆の国市民で、伊豆の国市立図書館の利用者カードを持っている人は、三島市、沼津市、伊豆市、函南町の図書館を利用できます。カードを作るときに必要な書類や利用できる範囲は、各図書館の規定によりますので、利用したい図書館でご確認ください。



図書館カレンダー
モバイル版QRコード

■2月のおはなし会

※いずれも土曜日

中央図書館 4日 11:00 ~
葦山図書館 25日 14:00 ~
あやめ会館 18日 10:30 ~

文化財通信

その 140

江川文庫所蔵資料の保存修理 (その4)

市役所文化財課
☎ 055-948-1428

松 平定信といえば、老中首座として寛政の改革を推進した人物として知られています。定信が老中を務めたのは、天明7年(1787)から寛政5年(1793)にかけてです。日本近海、特に蝦夷地(北海道)には、この頃、たびたびロシア船が現れるようになっていました。日本国内でも、こうしたロシアの南下政策への危機感が高まりつつあり、定信は、各藩に海防強化を命じるとともに、自ら相模・伊豆沿岸の視察を行うなど、積極的に海防政策に取り組んでいます。



蚕船図 (左:修理後、右:修理前)

(注1) が制作されました。定信は、伊豆半島を視察した際に江川邸にも立ち寄っており、文晁に命じて、裏門から見た富士山を描かせた、というエピソードも伝わっています。公益財団法人江川文庫には、文晁が描き、定信が賛を添えた寛政6年(1794)の「蚕船図」が伝来しています。画面中央に、西洋の異国船が、ややラフな筆致で描かれ、左上には「此船のよるてふことを夢のまもわすれぬハ世の宝也けり 楽翁戯題」とあります。楽翁(注2)とは、松平定信のことです。「この船(異国船)が日本に來航していることを、夢の中でも忘れないことが、世の中にあって宝(大切なこと)である」といったところでしょうか。

定信は、この絵を原画として版木を作らせ、版画を多数刷って広く配ったといわれています。庶民にもよく知られている「宝船」の絵になぞらえて、海防の重要性を知らしめようとしたのでしょうか。もっとも、定信は改革の失敗などから、この絵の描かれた寛政6年には、老中の座を退いていました。自ら「戯題」としているところを見ると、あるいは、改革道半ばにして幕政の中核を去らねばならなかったことへの自嘲の念も込められているのかもしれません。さて、江川文庫では、国・県・市の補助や住友財団の助成を活用して、重要文化財となっている書画・古文書などの保存修理を実施しています。この「蚕船図」も、補修されたもののひとつです。これまで本欄で紹介したものと同様、高度な技術を持った工房で、時間をかけて補修が施された結果、折れ筋やシミの目立つ傷んだ状態から、文晁の筆勢や定信の筆跡がよくわかる、描かれた頃の姿となって蘇ったのです。

(注1) 重要文化財。上下2巻。東京国立博物館蔵。

(注2) 松平定信は、奥州白河藩主であることから「白河楽翁」と号した。